



第35回目となる全国育樹祭が皇太子殿下のご臨席のもと、11月20日に奈良市平城宮跡で開催されました。「古都からのあふれる緑 未来へと」というテーマのもと、美しい森林を未来へと守り、育てる重要性を改めて認識するきっかけとなる大会になりました。

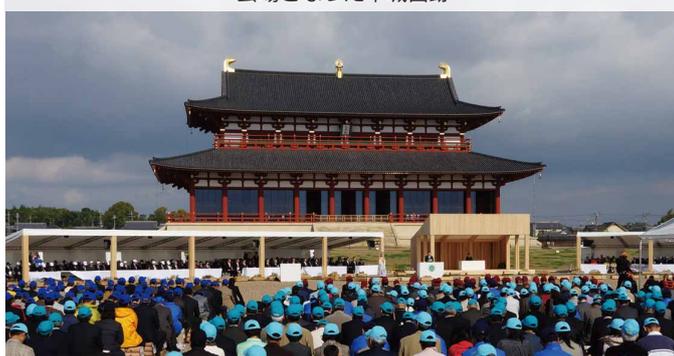
第35回 全国育樹祭

緑豊かな森林を守る

奈良県は世界遺産である古都奈良の文化財をはじめ、数多くの文化遺産に恵まれ、日本文化の発祥の地として世界からも注目されています。日本文化は古くから森が人々の暮らしと深く結びつくことにより培われてきました。今回の全国育樹祭は、「緑豊かな郷土を守り、森が育んできた歴史と文化を次の世代に引き継ぎ、一人ひとりが森林を守り、育む」という意識を一層高めることを目的に開催されました。

当日は、前日までの荒天も落ち着き、雲間から陽光が差し込む中、約3,000人の参加者とともに式典が進み、皇太子殿下が台風12号による紀伊半島豪雨で被害を受けた自治体の市町村長らにおことばをかけられる場面もありました。また、お手入れ会場では、昭和56年に開催された第32回全国植樹祭で昭和天皇がお手植えされた木(イチイガシ)のお手入れをなされました。

会場となった平城宮跡





豊かな自然環境と歴史ある森林林業

式典では日本全国の林業の模範とされてきた吉野林業の発祥の地「吉野町」と、産直の住宅システムにより地域材の需要拡大に取り組んでいる「十津川村」にあるサテライト会場との中継が行われ、奈良県における豊かな自然環境と歴史ある森林林業のPR、育樹のメッセージが発信されました。

エピソードでは、国際森林年子ども大使による「国際森林年アピール宣言」と「いのちの朝をはじめよう」の合唱が披露されたほか、

地元のあすか野小学校ブラバンド、河合第三小学校金管バンド・モアなどの出演者と参加者全員による「翼をください」の合唱・合唱が行われました。

台風12号で大変な被害を受けた奈良県ですが、東日本大震災の被災地にいる同年代の子どもたち「仲間がいるよ、応援しているよ」というメッセージを届けたという想いがこめられています。響き渡る歌声と想いによって暖かなムードに包まれ、それぞれの森林保全・育成の想いが一つにまとまった育樹祭となりました。

全国緑の少年団活動発表大会

11月19日には全国育樹祭の併催行事として「全国緑の少年団活動発表大会」が橿原市橿原文化会館で開催されました。全国で活動する3,829団体、約33万人の子どもたちの代表として、宮城県「利府町みどりの少年団」、奈良県「王寺小学校みどりの少年団」など、5団体が活動発表を行いました。また、「葉っぱのフレディ」の子どもたちによるショートミュージカルが上演されたほか、元橿原市昆虫館学芸員の白比伸子さんによる特別講演「虫の目でぞいてみよう！里山の環境と生きものたち」も行われ、充実した大会となりました。



参加した緑の少年団のみなさん

森林・林業・環境機械化展示実演会

全国育樹祭の記念行事であり、(社)林業機械化協会が「森林と機械と人の調和」をテーマに、林業の機械化を推進し、森林施業の効率化と安全性の向上を図ることなどを目的に「2011森林・林業・環境機械化展示実演会」が11月20日、21日の両日にわたって、奈良県五條市北宇智工業団地内で開催されました。2日間で約8,000人が来場し、出展者等の説明を熱心に聞いていました。

今年は林業機械メーカーなど56社が参加し、約500機種に及ぶ林業機械や機具が展示され、最新の林業機械を使った実演なども行われました。また、再生エネルギーの重要性が国民に広く認識されつつある中で、木材粉碎機や残材圧縮結束装置などの木質バイオマス関連機器のほか、太陽光発電システムなどの展示にも大きな関心が寄せられました。



林業機械の実演

